

3. 日本風景街道シンポジウム in しまね 議事内容

平成22年11月12日（金）、島根県松江市のくにびきメッセ3階「国際会議場」において『日本風景街道シンポジウム in しまね』を開催しました。

本シンポジウムでは、出雲の神芝居一座の松田順座長による出雲神話紙芝居、筑波大学大学院の石田東生教授及び万九千神社・立虫神社禰宜島根県神社庁主事の錦田剛志氏の講演、また、関西以西の日本風景街道パートナーシップ団体の中から5団体の代表者をお招きして「日本のこころを魅了する風景～聖地巡拝と日本風景街道～」と題したパネルディスカッションを開催しました。活発な議論のもと、約180名の参加者が熱心に傍聴されました。さらに、翌日の平成22年11月13日（土）には、出雲神話を肌で感じていただく「神話体験ツアー」を開催しました。

■『日本風景街道シンポジウム in しまね』

とき：平成22年11月12日（金）13：00～16：30

場所：くにびきメッセ3階国際会議場（松江市学園南1丁目2番1号）

主催：湖水街道推進会議 共催：中国地方風景街道協議会

参加人数：約180名



(1)出雲の神話紙芝居「くにびきのおはなし」

【演者】松田 順（出雲の神芝居一座 座長）

出雲国風土記に記される「国引き神話」を、松田氏ご自身が手作りした“紙芝居”で、身振り手振りを交えて分かりやすく演じていただきました。最後は、出会えたご縁に感謝し万歳で締めくくられました。



松田順氏

(2)《記念講演》神々の集う国「出雲」—神在月の謎に迫る—

【講演者】錦田剛志（万九千神社・立虫神社禰宜 島根県神社庁主事）

出雲ではなぜ「神在月」とよばれているのか、また、神を迎える神事の意味合いや神様の滞在中はどこに住まれているのか等、あまり知られることのない謎に包まれた「出雲」について分かりやすくご講演いただきました。「出雲大社には神々が住まう場所があり、神々が通られる道がある。その神聖な道を守っていくことが大事」と訴えられました。



錦田剛志氏

(3)《基調講演》「風景・みち・協働」

【講演者】石田東生^{はるお}（筑波大学大学院システム情報工学研究所教授）

「風景・みち・協働」と題し今後の日本風景街道のあり方についてご講演いただきました。日本は美しい風景を随所にもちながら、一方で、「風景の衰え」＝「風景の写り込む地域そのものの衰え」が進んでいることを示されました。ハイウェイの整備を進めると同時にバイウェイの活用を進める必要があることを力説されました。そのために、地域の皆さんが「和」を背負って、「ワッショイ」と掛け声をかけて地域づくりを進めていくことを勧められました。



石田東生氏

(4)パネルディスカッション「日本のこころを魅了する風景」～聖地巡拝と日本風景街道～

パネリスト 裏宗久（日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会会長）

谷越衣久子（日南海岸地域ソーシャル・イニシアチブ推進協議会）

新谷 稔（むれ源平まちづくり協議会会長）

野辺一寛（風待ち海道協議会）

石村隆男（湖水街道推進会議）

アドバイザー 石田東生（筑波大学大学院システム情報工学研究所教授）

石川雄一（国土交通省中国地方整備局道路部長）

コーディネーター 三代隆司（湖水街道推進会議座長）



近畿、中国、四国、九州の日本風景街道5団体の代表者が集まりそれぞれの活動紹介を行いました。ディスカッションでは、地域づくりに公民館活動を組み入れたこと、広域エリアで連携していくときのポイント、街道でのおもてなしの工夫などで意見交換を行いました。広域エリアの連携では共通のテーマを持つことが大事であること、おもてなしの工夫では地域の歴史・文化を踏まえたおもてなしの形があること、特産品のショップでの情報提供の必要性などを議論しました。

それぞれの地域の好きな風景では、長い道のりを歩きたどり着いた伊勢神宮の神域の風景、常緑樹の中に咲く山桜と青い海のコントラスト、朝日や夕日を受けた自然の風景などが挙げられ、風景は季節、時間、匂い、音、光によって、様々に変化し楽しめるものだということが理解できました。

アドバイザーからは、風景街道により地域の連携を図り滞在時間を長くさせることで地域を潤わせること、地域づくりのキーポイントである「地域資源の掘り起こし」「情報発信」「活動する人」の要素を活かして取り組んでいくことなどのアドバイスがありました。本日のパネルディスカッションで得られた成果をそれぞれが地域に持ち帰り、今後の活動に活かすことを申し合わせ、閉会しました。



【トピックス】 パートナースHIP団体の名称変更

本シンポジウムの冒頭で、主催者である三代座長より、パートナーシップ団体の名称変更について説明を行いました。

「人間文化の原風景～神仏の通ひ路～」の舞台となる宍道湖・中海圏域は、日本を代表する「湖水地域」であり、出雲神話が語るこの地域の風景は、「斐伊川」「日野川」などの水系により形づくられたことから、圏域全体に共感を得られる言葉である「湖水」を冠した「湖水街道推進会議」とすることを提案いたしました。

これまでの「レーク街道推進会議」の「レーク」は、宍道湖、中海だけをイメージするが、「湖水」とすることで、海、川、山からの清水までをイメージし、圏域を表すに相応しいと判断したためです。

今後は、正式な名称変更手続きを行った後に、新名称による活動を行っていくこととしています。



パートナーシップ名称変更について説明する三代座長

■神話体験ツアー

とき：平成22年11月13日（土） 8：00～14：30

場所：①御井神社（島根県斐川町）→②玉作湯神社（島根県松江市玉湯町）→③粟島神社（鳥取県米子市彦名町）→④華蔵寺（島根県松江市）

参加人数：33名

場 所	内 容
御井神社	オオクニヌシが因幡の国で結婚を約束したヤカミヒメはオオクニヌシと共に出雲で暮らすことができず、御井神社までたどり着き御子をご出産。その御子を木の股に置いて因幡に帰られたという言い伝えがあります。 オオクニヌシとヤカミヒメのお話を聞きました。  ヤカミヒメがご出産前にこの井戸の水で身を清められたと伝えられております。 
玉作湯神社	玉造の神であるクシアケタマ及びオオクニヌシ、スクナヒコナを祀る神社です。最近、境内にある「願い石」と社務所でお授け頂く「叶い石」で願い事がかなうということで有名です。  触って祈れば願いが叶うと言われる「願い石」。ここに「叶い石」を置き願いをかけます。 
粟島神社	オオクニヌシと共に国作りをしたスクナヒコナが常世へ戻ったとされる場所として知られます。   延命長寿の守り神「八百比丘さん」(八百姫)のお話を聞きました。
華蔵寺 (昼食：精進料理)	松江市の枕木山の山頂に位置する華蔵寺で精進料理を頂き、吉本住職の御法話を伺いました。   